

LEDを使った大型画面

裸眼3Dに変換

VB2社が開発

既存設備に後付けOK

映像機器関連ベンチャーのニューサイトジャパン（東京・港）とPTI（川崎市）は、LED（発光ダイオード）を使った大型ディスプレイの映像を裸眼で見られる3D（3次元）に変換する技術を開発した。LEDディスプレイ専業で世界大手の中国ライトハウスと提携し国内外で販売する。既存のディスプレイにも後付けでき、競技場や商業施設の大型ビジョンなどでの採用を狙う。

ニューサイトが左右の目に入る映像を分けて立体間を得るための装置、PTIが3Dに適した映像に変換するプロセッサをそれぞれ開発した。開発品は169インチ。

両社の技術を基にライトハウスがLEDディスプレイを製造、国内外の電機メーカーなどに販売する。価格は試作品と同規模で3000万円程度になるという。

ライトハウスはOEM（相手先ブランドによる生産）で、国内電機メーカーのLEDディスプレイを手掛ける。国内のサッカー場や大規模な商業施設などで大型ディスプレイの導入実績がある。

（写真：競技場や商業施設での採用を狙う）

2012年2月23日 : 日本経済新聞 第13面より引用